





淨土真宗本願寺派

正信念仙偈



## お勤めの仕方

①  は、住職（代表者）一人が発音します。音符横の**カタカナ**は**ハ調の音階**を表します。その音階で最初の発音音を出します。

②  の印からご一緒にお勤めしましょう。

③（正信偈の部 一〇―十五頁）文字の横の**赤い符号**に合わせて音階を下げます。また、**赤い下ル**でその行の下まで音階を下げます。**引**は二拍伸ばします。

④（念仏和讃の部 十六―二十四頁）文字の横の**赤い符号**に合わせて音階を上げ下げ、また、変化させます。**引**は二拍伸ばします。

※詳しくは、「浄照寺ホームページ」で解説します。



歸命無量壽如來

きみようむりようじゆによらい 引



南無不可思議光

なもふかしぎこう 引

法蔵菩薩因位時

ほうぞうぼさついに 引

在世自在王仏所

ざいせいじざいおうぶつしよ 引

觀見諸仏淨土因

とけんしよぶつじょうど 引

国土人天之善惡

こくどにんでんしぜんまく 引

建立無上殊勝願

こんりゆうむじょうしゆしやうがん 引

超發希有大弘誓

ちやうほつけ 引 うだいぐせい 引

五劫思惟之撰受 ごこうしゆいししょうじゆ 引

重誓名声聞十方 じゆうせいみしょうもんじつぽう 引

普放無量無辺光 ふほうむりようむへんこう 引

無碍無对光炎王 むげむたいこうえんのう 引

清浄歡喜智慧光 しょうじょうかんぎちえこう 引

不断難思無称光 ふだんなんじむしょうこう 引

超日月光照塵刹 ちやうにちがっこうしょうじんせつ 引

一切群生蒙光照 いっさいぐんじょうむこうしょう 引

ほんがんにみようごうしやうじやうごう 引

本願名号正定業

ししんしんぎやうがんにいん 引

至心信楽願為因

じやうとうがくしやうだいねほん 引

成等覚証大涅槃

ひっしめつどがんにじやうじゆ 引

必至滅度願成就

によらいしよいこうしゆつせ 引

如来所以興出世

ゆいせつみだほんがんかい 引

唯説弥陀本願海

ごじよくあくじぐんじやうかい 引

五濁悪時群生海

おうしんによらいによじつごん 引

応信如来如実言

能 癸 一 念 喜 愛 心 のうほついちねんきあいしん 引

不 断 煩 惱 得 涅 槃 ふだんぼんのうとくねはん 引

凡 聖 逆 謗 齊 廻 入 ぼんじょうぎやくほうさいいえにゆう 引

如 衆 水 入 海 一 味 によしゆうしいにゆうかいいちみ 引

撰 取 心 光 常 照 護 せつしゆしんこうじょうしようご 引

已 能 雖 破 無 明 闇 いのうすいはむみようあん 引

貪 愛 瞋 憎 之 雲 霧 とんないしんぞうしうんむ 引

常 覆 真 実 信 心 天 じょうふしんじつしんじんてん 引

譬ひ如によ日に光につ覆こう雲ふ霧うん  
引

雲うん霧む之し下げ明み無よう闇む  
引

雲霧之下明無闇

獲ぎ信やく見しん敬けん大き慶き喜よう  
引

獲信見敬大慶喜

即そく横おう超ち截ょう五ぜつ惡ご趣あく  
引

即横超截五惡趣

一切い善っ惡き凡い夫ぜん人まく  
引

聞もん信しん如に來よ弘らい誓ぐ願ぜ  
引

聞信如來弘誓願

佛ぶつ言ごん広こう大だい勝い解し者ょう  
引

佛言廣大勝解者

是ぜ人にん名み分よう陀ふん利だ華り  
引

是人名分陀利華

— 彌陀仏本願念仏 みだぶつほんがんねんぶつ 引

じゃけんきようまんなくしゅじよう 引

邪見憍慢悪衆生

しんぎようじゅじんになん 引

信樂受持甚以難

なんちゆうしなんむか 引

難中之難無過斯

印度西天之論家 いんどきいてんしろん 引

ちゆうかじちいきしこうそう 引

中夏日域之高僧

けんだいししいうこうせしいうい 引

顯大聖興世正意

みようによらいほんぜいおうき 引

明如来本誓忘機



しゃかによらいりょうがせん引

釈迦如来楞伽山

引引引引引  
いしゅごうみょうなんてんじく

為衆告命南天竺

りゆうじゅだいにしゅつとせ引

龍樹太子出於世

しつのおぎいはうむけん引

悉能摧破有無見

せんぜつだいじょうむじょうほう引

宣説大乘無上法

しょうかんぎじしょうあんらく引

証歡喜地生安樂

けんじなんぎようろくく引

顕示難行陸路苦

しんぎょういぎょうしいどうらく引

信樂易行水道樂

おくねん み だ ぶつほんがん 引  
憶念 弥陀 仏本願

引 引 引 引  
じねんそく じ にゆうひつじよう

自然 即時 入 必定

引  
ゆいのうじようしようによらいごう

唯能 常称 如来 号

引 引  
おうほうだい ひ ぐ ぜいおん

応報 大悲 弘誓 恩

てんじん ぼ きつぞうろんせつ 引  
天親 菩薩 造論 説

引 引  
き みよう む げ こうによらい

歸命 無碍 光 如来

引  
え しゆ た ら けんしんじつ

依修 多羅 顯真 実

引 引  
こうせん おうちようだいせいがん

光闡 横超 大誓 願

引 こう ゆ ほんが んり き え こう 引  
広由本願力廻向

い ど ぐんじょうしやういっしん 引  
いどぐんじょうしやういっしん

為度群生彰一心

き にゆうく どくだいほうかい 引  
き にゆうく どくだいほうかい

帰入功德大宝海

ひつぎやくにゆうだい え しゆしゆ 引  
ひつぎやくにゆうだい え しゆしゆ

必獲入大会衆数

とく し れん げ ぞう せ かい 引  
とく し れん げ ぞう せ かい

そくしやうしんによほっしやうじん 引  
そくしやうしんによほっしやうじん

即証真如法性身

ゆうぼんのうりんげんじんずう 引  
ゆうぼんのうりんげんじんずう

遊煩惱林現神通

にゆうしやう じ おん じ おう げ 引  
にゆうしやう じ おん じ おう げ

入生死菌示忘化

ほんし どんらんりようてんし 引  
本師曇鸞梁天子

じょうこうらんしよ ぼさつらい 引  
常向鸞処菩薩礼

さんぞうる しじゅじようきよう 引  
三蔵流支授浄教

ほんじようせんぎよう きらくほう 引  
梵焼仙經帰楽邦

てんじん ぼさつろんちゆうげ 引  
天親菩薩論註解

ほうど いんが けんせいがん 引  
報土因果顕誓願

おうげん ねこう ゆたりき 引  
往還廻向由他力

しようじよう し いんゆいしんじん 引  
正定之因唯信心

わくぜんぼんぶしんじんぼつ引

惑染凡夫信心発

しょうちしょうじそくねはん引

証知生死即涅槃

ひっしむりようこうみようど引

必至無量光明土

しょうしゅうじょうかいふけ引

諸有衆生皆普化

どうしゃつけっしょうどうなんしょう引

道綽決聖道難証

ゆいみようじょうどかつうにゆう引

唯明浄土可通入

まんぜんじりきへんごんしゅう引

万善自力貶懃修

えんまんとくごうかんせんしょう引

円満徳号勸専称

さん引 ぶ さんしん け おんごん引

三不三信誨慇懃

ぞうまつほうめつどう引 ひいん引

像末法滅同悲引

いっしょうぞうあくち ぐぜい引

一生造悪値弘誓

ゆつくり引 し あんにようがいししょうみようか

至安養界証妙果

(いったんこいで区切ります)



ぜんどうどくみようぶっしょうい引

善導独明仏正意

こうあいじょうさん よぎやくあく引

矜哀定散与逆悪

こうみようみようごうけんいんねん引

光明名号顕因縁

かいにゆうほんがんだい ちかい引

開入本願大智海

ぎようじゃしようじゆこんごうしん 引

行者正受金剛心 引

きよう き いちねん そうおうご 下ル引

慶喜一念相應後 引

よ い だいとうぎやくさん 引

与一韋提等獲三忍 引

そくししようほっししよう しじようらく 下ル引

即証法性之常樂

げんしんこうかいいちだいきよう 引

源信広開一代教 引

へん き あんにようかんいつさい 引

偏帰安養勸一切 引

せんぞうしゅうしんはんせんじん 引

專雜執心判淺深 引

ほうけにどしやうべんりゆう 下ル引

報化二土正弁立

ごくじゅうあくにんゆいしやうぶつ 引

極重悪人唯称仏

がやくざい 引 ひせつしゆちゆう 下ル 引

我亦在彼摄取中

ぼんのうしやうげんすい 引 ふけん

煩惱障眼雖不見

下ル 引 だいひむけんじやうしやうが 引

大悲無倦常照我

ほんしげんくうみやうぶつきやう 引

本師源空明仏教

れんみんぜんまくぼん 引 ぶにん

憐愍善悪凡夫人

しんしゆうきやうしやうこうへんしゆう 引

真宗教証興片州

下ル 引 せんじやくほんがん 引 ぐあくせ

選扱本願弘悪世



げんらいしょうじりんでんげ 引  
還來生死輪轉家 引

けっちぎじょういしよし 下ル引

決以疑情為所止

そくにゆうじゃくじょうむいらく 下ル引

速入寂靜無為樂

ひっちしんじんいのうにゆう 下ル引

必以信心為能入

ぐきょうだいじしゅうしどう 引  
弘經大士宗師等 引

じょうさいむへんごくじよくあく 引

拯濟無辺極濁惡

どうぞくじしゅうぐどうしん 引

道俗時衆共同心

しだいにゆつくり 引  
ゆいかしんしこうそうせつ

唯可信斯高僧說





南 な 南 な 南 な

無 も 無 も 無 も

阿 あ 阿 あ 阿 あ

弥 み 弥 み 弥 み

陀 だ 陀 だ 陀 だ

仏 ぶ 仏 ぶ 仏 ぶ

南 な 南 な 南 な 南 な

無 も 無 も 無 も

阿 あ 阿 あ 阿 あ

弥 み 弥 み 弥 み

陀 だ 陀 だ 陀 だ

仏 ぶ 仏 ぶ 仏 ぶ



世せの盲冥もうみようを引て引ら引す引なり引  
 法ほっしん身の光輪こうりんき引わ引も引なく引  
 いじっこうまじっこうに十劫じっこうを引へ引たま引えり引  
 弥み陀だ成じょう仏ぶつの引この引か引た引は引























南な 南な 南な 南な 南な  
 無も 無も 無も 無も 無も  
 阿あ 阿あ 阿あ 阿あ 阿あ  
 弥み 弥み 弥み 弥み 弥み  
 陀だ 陀だ 陀だ 陀だ 陀だ  
 仏ぶ 仏ぶ 仏ぶ 仏ぶ 仏ぶ






















智慧ちえの光明こうみやうはかりなし  
 有量うりやうの諸相しよそうことごとく  
 光暁こうけうかむらぬものはなし  
 眞実しんじつ明みやうに帰命きみやうせよ

南な 南な 南な 南な  
 無も 無も 無も 無も  
 阿あ 阿あ 阿あ  
 弥み 弥み 弥み  
 陀だ 陀だ 陀だ  
 仏ぶつ 仏ぶつ 仏ぶつ



 南な —  南な —  南な —  阿あ  
 無も —  無も —  無も —  弥み  
 阿あ —  阿あ —  阿あ —  陀だ  
 弥み —  弥み —  弥み —  仏ぶつ  
 陀だ —  陀だ —  陀だ  
 仏ぶ —  仏ぶ —  仏ぶ

---

 南な —  南な —  南な —  南な  
 無も —  無も —  無も  
 阿あ —  阿あ —  阿あ  
 弥み —  弥み —  弥み  
 陀だ —  陀だ —  陀だ  
 仏ぶ —  仏ぶ —  仏ぶ



平びよう等どう覚かくに引帰き命みようせ引よ引  
 有う無むを引は引な引る引と引の引べ引た引も引お引  
 光こう触そくか引む引る引も引の引は引み引な引  
 解げ脱だつの引光こう輪りんき引わ引も引な引し引

南な 南な 南な 南な 南な  
 無も 無も 無も 無も  
 阿あ 阿あ 阿あ 阿あ  
 弥み 弥み 弥み 弥み  
 陀だ 陀だ 陀だ 陀だ  
 仏ぶ 仏ぶ 仏ぶ 仏ぶ



	難 <small>なん</small>	光 <small>こう</small>	一 <small>いっ</small>	光 <small>こう</small>
	思 <small>じ</small>	沢 <small>たく</small>	切 <small>さい</small>	雲 <small>うん</small>
	議 <small>ぎ</small>	か	の	無 <small>む</small>
引	を	む	有 <small>う</small>	碍 <small>げ</small>
引	帰 <small>き</small>	ら	碍 <small>げ</small>	如 <small>に</small>
	命 <small>み</small>	ぬ	に	虚 <small>よ</small>
	せ	も	さ	空 <small>こ</small>
	よ	の	わり	空 <small>く</small>
引		ぞ	なし	
		なき		
引				

南 <small>な</small>	南 <small>な</small>	南 <small>な</small>
無 <small>も</small>	無 <small>も</small>	無 <small>も</small>
阿 <small>あ</small>	阿 <small>あ</small>	阿 <small>あ</small>
弥 <small>み</small>	弥 <small>み</small>	弥 <small>み</small>
陀 <small>だ</small>	陀 <small>だ</small>	陀 <small>だ</small>
仏 <small>ぶ</small>	仏 <small>ぶ</small>	仏 <small>ぶ</small>



南 <small>な</small>	南 <small>な</small>	南 <small>な</small>	南 <small>な</small>
無 <small>も</small>	無 <small>も</small>	無 <small>も</small>	無 <small>も</small>
阿 <small>あ</small>	阿 <small>あ</small>	阿 <small>あ</small>	阿 <small>あ</small>
弥 <small>み</small>	弥 <small>み</small>	弥 <small>み</small>	弥 <small>み</small>
陀 <small>だ</small>	陀 <small>だ</small>	陀 <small>だ</small>	陀 <small>だ</small>
仏 <small>ぶ</small>	仏 <small>ぶ</small>	仏 <small>ぶ</small>	仏 <small>ぶ</small>

---

南 <small>な</small>	南 <small>な</small>	南 <small>な</small>	南 <small>な</small>
	無 <small>も</small>	無 <small>も</small>	無 <small>も</small>
	阿 <small>あ</small>	阿 <small>あ</small>	阿 <small>あ</small>
	弥 <small>み</small>	弥 <small>み</small>	弥 <small>み</small>
	陀 <small>だ</small>	陀 <small>だ</small>	陀 <small>だ</small>
	仏 <small>ぶ</small>	仏 <small>ぶ</small>	仏 <small>ぶ</small>





畢竟ひつきよう依えをを歸き命みようせせよよ  
 一切いっさいのの業ごう繫ごっけものものぞぞここりりぬぬ  
 遇ぐ斯し光こうののゆゆええななれればば  
 清しょう淨じよう光こう明みようななららびびななしし

南な 南な 南な 南な 南な  
 無も 無も 無も 無も 無も  
 阿あ 阿あ 阿あ 阿あ 阿あ  
 弥み 弥み 弥み 弥み 弥み  
 陀だ 陀だ 陀だ 陀だ 陀だ  
 仏ぶ 仏ぶ 仏ぶ 仏ぶ 仏ぶ



ぶつ 引  
 こう 引  
 せう 引  
 えう 引  
 さい 引  
 だいいち 引  
 第一

仏光照曜最第一

こうえんのうぶつ 引  
 引  
 引  
 引  
 引  
 引

光炎王仏となづけたり

さんず 引  
 こくあん 引  
 引  
 引  
 引  
 引

三途の黒闇ひらくなり

だいおうぐ 引  
 きみよう 引  
 引  
 引  
 引

大応具を帰命せよ



がん 引  
 に 引  
 し 引  
/>
 く 引  
 ごとく

願似此功徳

びよう 引  
 どう 引  
 せ 引  
 いっさい 引  
 引

平等施一切

どう 引  
 ほつ 引  
 ぼ 引  
 だいしん 引  
 引

同発菩提心

おう 引  
 じよう 引  
 あん 引  
 らつこく 引  
 引

往生安樂国

引  
 引  
 引  
 引  
 引

往生安樂国





## 私たちのちかい

- 一、自分の殻に閉じこもることなく  
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします  
微笑み語りかける仏さまのように
- 一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず  
しなやかな心と振る舞いを心がけます  
心安らかな仏さまのように
- 一、自分だけを大事にすることなく  
人と喜びや悲しみを分かち合います  
慈悲に満ちみちた仏さまのように
- 一、生かされていることに気づき  
日々に精一杯つとめます  
人々の救いに尽くす仏さまのように



名 前